

東区 区域まちづくり事業 効果検証シート

事業名称		実施主体			
ひがしふれあい文化祭		東区ふれあい事業実行委員会			
事業目的	事業効果	活動指標	R1	R2(中止)	R3
区民が文化・芸術に触れる機会を創出するとともに、区民間のコミュニティの輪を広げ、明るく住みよい安全なまちづくりの推進の一助とする。文化の振興発展を促すことで、区民の親睦・連帯の推進を図る。	多くの区民が参加することにより、区域の一層の親睦、連帯、交流を深め、明るく住みよい安全なまちづくりを推進するとともに、区民が事業に積極的に参画することにより、まちづくりの担い手づくりが期待できる。 また、絵画等の出展の機会を提供するなど、区民の文化活動を支援することにより、区民相互の親睦・連帯が推進される。	作品展出展応募数	129点	-	40点
		来場者数	3,300人	-	973人
①妥当性	②協働の視点	③インパクト	④効率性		
○	区民が文化的活動を発表する機会を行政が提供し、活動を支援することで、区民間の親睦、連帯、交流が深まり、明るく住みよい安全なまちづくりに寄与しているため、妥当性が高い事業である。	○	文化祭の準備段階から、区民の方によって構成される実行委員会で協議し、区民にも作品を出展いただいていることから、協働の度合いが非常に高い事業である。	○	コロナ禍において、多くの発表の場が中止となっている中、作品展を実施したことは、区内のみならず、区域外、市外にも文化的活動を宣伝でき、多くの方を引きつけるインパクトのある事業といえる。
○	文化祭の準備段階から、区民の方によって構成される実行委員会で協議し、区民にも作品を出展いただいていることから、協働の度合いが非常に高い事業である。	○	コロナ禍のため、今回は作品展及び小学生絵画展のみ開催としたことから、従事者数を精査したことで、実行委員及び事務局の負担等も改善することができた。		
⑤自立発展性	総合評価				
△	企画、立案、出展においては、区民の方を中心に担ってもらっているが、調整、広報等の業務については広く周知を図る必要性があり、行政において担うべきことであることから共同によることが望ましい。	○	コロナ禍で規模を縮小し、例年開催していた野点コーナーやLaQの出展、コンサートを中止して作品展及び小学生絵画展のみを開催したが、文化の息吹を絶やさないう芸術に触れることができる催しを行った結果、一定数の方に来場頂けた。		
今後の方向性(課題、改善提案等)					
拡充 継続 見直し 廃止	当該事業が区民の文化的活動の発表の場として認知されていると判断する。また、併せて東区で実施されている文化的活動と開催内容等について比較・検討し、差別化や統合化することで効果・効率を高めていく必要がある。				